

平成30年度市民まちづくり活動促進テーブル

第2回事業検討部会

会 議 録

日 時：平成30年8月8日（水）午後1時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 地下1階 1号会議室

1. 開 会

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

市民まちづくり活動促進テーブルの第2回事業検討部会を開催させていただきます。

なお、本日は、大門委員からご欠席というご連絡をいただいております。

早速ですが、これより会議に入らせていただきますので、ここからの進行は事業検討部会長にお渡しいたします。小内部会長、お願いいたします。

2. 議 題

○小内部会長

本日もよろしくようお願いいたします。

まず最初に、本日の資料と議事の進行について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

まず、資料の確認からさせていただきます。

次第、次に資料1-1が市民まちづくりワークショップの開催結果、資料1-2が市民まちづくりワークショップの各グループの意見の冊子、資料2がまちづくり活動ワークショップの開催結果（速報）、資料3-1が札幌市における市民のまちづくり活動促進に関するアンケート調査結果、資料3-2が札幌市における市民のまちづくり活動促進に関するアンケート調査結果の属性別、資料4は、カラーのA3判の大きな資料になっていますが、第3期の基本計画の基本目標及び基本施策（案）修正ポイントについて、資料5は、こちらもカラーのA3判の大きな資料ですが、第3期基本計画の基本目標及び基本施策（案）の事業例について、資料6は第3期基本計画及び答申の項目案です。

資料は以上になりますが、お手元のない資料はございませんでしょうか。

続きまして、本日の議題についてご説明いたします。

次第をごらんいただければと思います。

議題の（1）が、市民まちづくりワークショップの開催結果について、7月13日に実施しました市民向けのワークショップの結果についてご報告させていただきます。（2）のまちづくり活動ワークショップは、市民活動団体を対象に実施したワークショップで、この開催結果についてご報告いたします。（3）の札幌市における市民のまちづくり活動促進に関するアンケート調査結果については、前回ご説明申し上げました団体を対象にしたアンケートの調査結果ですが、追加のご報告をさせていただきたいと思っております。

（4）と（5）では、前回の事業検討部会でいただいたご意見をもとに、次期基本計画の基本目標と基本施策についての修正ポイントのご説明、あわせて、補足として次期基本計画の基本施策ごとの事業の例について、最後に、（6）では次期基本計画と答申の項目案についてご説明したいと考えております。

議題は以上になります。

○小内部会長

それでは、早速、議題（１）に入りたいと思います。

（１）の市民まちづくりワークショップの開催結果についてご説明をお願いいたします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

資料の１－１と１－２をごらんください。

まず、資料１－１からご説明させていただきます。

市民まちづくりワークショップの開催結果は市民の方を対象に実施したワークショップになります。開催日時が７月１３日の金曜日に市役所の８階の会議室で実施しました。第１部が１４時から、第２部は１８時半からということで、それぞれ２時間で同じ内容のものを２回実施させていただきました。

参加者数は、市のほうで無作為抽出した市民の方２，０００人に対して参加案内を送付しまして、その案内を受け取った市民の中から参加希望のあった方にご参加いただきました。第１部が１７名、第２部が１３名の参加者でした。

プログラムは、開会、市から挨拶しまして、そして、本日の進め方や第２期の基本計画の概要についてご説明させていただき、その後にワークショップということで、まずアイスブレイクというテーブルごとに簡単なゲームをして打ち解けていただいて、その後にグループワークということでテーブルごとに自己紹介をして、参加しやすいまちづくり活動と参加しやすくなる機会というテーマで話し合いをしていただきました。テーブルごとに結果発表していただいて閉会という流れでした。

ページをめくっていただきまして、開催結果についてです。

黄色の部分はまとめになっていますので、先にその下の（１）からご説明したほうがわかりやすいと思いますので、（１）を見てください。

参加者の方が話しやすいようにまちづくり活動を三つに分けまして、①が身近な活動、ふだん日常的にできるもの、②が町内会活動やNPOなどの団体活動、③がみずから企画して行う活動、地域をよくするために意識的に取り組むものというふうに三つに分けまして、それぞれにどういうものをまちづくり活動としてイメージしているのか、それが参加しやすいのか参加しにくいのか分けていただいて、参加するために必要な仕組みやきっかけはどういったものなのかを話し合っていました。

まず、①の身近な活動の部分ですが、活動のイメージでは、挨拶などの日常的なコミュニケーションや美化活動、除雪、通学路の見守りなどの活動が多く挙げられました。いずれの取り組みも比較的取り組みやすいと認識されている傾向で、その理由としては、家に近い場所で活動できる、時間が短くて済むなどの制約の少なさに関連するものが挙げられていました。参加するために必要なきっかけ等では、まちのルールを知ってもらう、年齢を問わず関わることができるといった参加のための門戸を広げるもののほか、まずは挨拶から、子どもが主体的に取り組む、大人の模範になる、また、例えばごみ拾いをするなどのパフォーマンスをしながら取り組みのイメージアップにつながるようなもの、取り組み

を実感できるような取り組み、数字による見える化といったものが挙げられました。

次に、町内会活動やNPOなど団体活動につきましては、イメージとしてはお祭りや子ども会、防災活動、花火大会などの町内会に関連する活動が多く挙げられました。また、NPO法人の活動では、介護ヘルパーの派遣、過疎地域への若者派遣、子ども食堂などの取り組みも挙げられていました。参加のしやすさについては、町内会活動は日中働いている人に対する参加の呼びかけが難しい、集合住宅へのアプローチが難しい、NPO法人の活動に対しては、取り組みのイメージを理解してもらうのが難しいので参加者が集まりにくいといった取り組みにくさに関する意見が比較的多く挙げられました。参加するために必要なきっかけでは、活動内容がわかりやすい情報発信、時間帯を工夫するなど参加者の都合に合わせた参加の仕組み、それから、例えば、参加ポイント制度を設けるなど参加するメリットなどのご意見が挙げられました。

次に、3番目のみずから企画して行う活動は、イメージとしては子育てサポートや地域の介護施設の手伝い、朗読会、子ども食堂、小学校などによる特別授業などの取り組みが挙げられました。活動場所の手配や人を集める手間がかかるので取り組むことは難しいという意見がありました。参加するために必要なきっかけとしては、個人でも意見を提案しやすい環境、活動したことへの対価があること、運営者の負担を軽減するといったことに関する意見が出されました。

(2)は開催の様子として写真を掲載しています。

最初の黄色い囲みに戻っていただきまして、これまでのご意見をまとめますと、まず、身近な活動については、比較的自由に組み立てるものが多いことから、取り組みのハードルは低いと感じられている傾向でした。町内会活動は、地域の催事に関する取り組みが多く挙げられて、運営者、参加者とも人材確保が難しいと感じられている。みずから企画する取り組みについては、活動内容が理解されにくいことや活動に一定の準備、場所や人員の確保が必要などの理由で取り組みのハードルが高いと感じられているということでした。

まとめますと、地域で行うまちづくり活動については、参加者の門戸を広げる取り組みや活動のイメージアップ、活動したことの効果を実感できる仕組みなどが必要であるというご意見でした。それから、NPOなどの団体活動では、取り組みにかかわらず活動内容を理解してもらうことが難しく、参加者を募るのが難しいと感じられている、地域に限定せずに行うNPOとの団体活動については、活動内容を理解してもらうための取り組みやニーズに見合った活動が提供できる仕組みなどが必要であるというのが今回のワークショップのご意見になります。

次の資料1-2については参考ということでお配りしたのですが、このワークショップのテーブルごとに出された意見をまとめたものになっていますので、参考としてごらんいただければと思います。

○小内部会長

今の説明について、何かご質問があればお願いします。

参加者の男女比はどうなっていますか。夜は勤めている方が多いという感じですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

今回は、かなり幅広い方にご参加いただきまして、男女比でいうと、ざっと見で半々ぐらいの感じでご参加いただきましたし、年代でも20代の方から70代の方まで満遍なくいろいろな世代の方にご参加いただきまして、非常にバランスのとれた参加者構成になっていました。

○小内部会長

特にないでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○小内部会長

なければ、次に、まちづくり活動ワークショップの団体のほうをお願いいたします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

それでは、資料2をごらんください。

まちづくり活動ワークショップの開催結果、こちらは団体を対象にして開催したワークショップになります。（速報）と書いてありますが、ちょうど取りまとめの作業の最中で、今回は速報版として一旦のご報告のために急ぎでつくらせていただいた資料になりますので、あらかじめご了承ください。と思います。

まず、開催目的は、第3期基本計画の検討に向けて団体のまちづくり活動における課題や必要な取り組みや支援、制度について意見交換を行いました。

開催日時は7月23日月曜日に市役所の地下1階、この1号会議室で開催いたしました。こちらも2部構成になっていまして、同じ内容のものを2回開催しています。

参加者数は第1部が30団体30名、第2部が24団体24名です。札幌市内に事務局を置くNPO法人と市民活動サポートセンターの利用登録団体、それから、さぼーとほっと基金の登録団体の中から2,000団体を無作為抽出しまして参加案内を送付いたしました。当初は、各部20団体ずつの計40団体を対象に考えていたのですが、非常にお申し込みが殺到しまして100団体を超えるお申し込みをいただいたので、急遽、受け入れ枠を増やして開催いたしました。

プログラムは、開会、挨拶がありまして、進め方と第2期基本計画の概要についてご説明した後、ワークショップに入りまして、テーブルごとに各団体の自己紹介をしていただきまして、意見交換会ということで、まちづくり活動における課題と必要だと思う取り組みや支援、制度について話し合いをしていただきました。最後に、グループごとに発表したという流れになっています。

2ページ目をごらんください。

こちらに開催結果をまとめたものを書いてあります。課題として出されたものを大きく分類すると5項目ほどありました。やはり人材、資金、場所、それから、交流、連携、情報という課題が挙げられました。

課題と必要な取り組みをそれぞれ見ていきたいと思えます。

まず、人材については、団体の活動を行う人材が不足している、団体の認知度不足などから新たに募集しても人が集まらず世代交代や担い手の確保ができていないということで、必要な取り組みとしては、活動に気軽に参加できるきっかけづくり、企業や学生などに積極的に参加を呼びかけていくことが必要である。資金については、団体の活動資金が不足している。会員やスポンサーから調達することが難しく補助金の利用を考えるが、情報の不足や条件が合わないことがある、そこで、補助金制度をわかりやすく情報発信するとか条件緩和や手続の簡便化を図るほか、クラウドファンディングを活用するなど資金調達しやすい支援や制度が必要である。場所については、活動場所を探すに当たってニーズ、料金や広さに合った場所が不足している、公共施設は低料金で利用できるが、その一方で予約で埋まっていてなかなか借りられないことが多いということで、既存の施設以外に公共や民間などの空きスペースを間借りで活用するなどマッチングする仕組みや支援が必要ではないかというご意見がありました。それから、交流、連携については、他団体等を知る機会や交流する場が不足している、連携を考えるに当たりお互いの活動状況やルールの把握に時間を要する、そこで、他の団体等と自由に情報交換や交流を行える場、お互いの状況や要求事項を考慮してマッチングを促進するコーディネーターが必要ではないか。最後に、情報の部分ですが、団体の活動情報を発信する機会や人材ノウハウが不足している、また、活動に関する情報が分散しているため有効な情報を収集することが難しい、必要な取り組みとしては、情報発信ツールを活用するためのセミナーやイベントを通じた発信機会を設けることや情報を集約したポータルサイトが必要であるといったご意見が出てきました。

次のページからは、それぞれの課題ごとに出されていた意見をまとめたものになりますので、参考として後ほどごらんいただければと思えます。

以上になります。

○小内部会長

以上の説明に対して、今後の話し合いの参考になる点も含めて質問や意見がありましたら、お願いいたします。

○澤出副部長

申し込み数がすごく多くて非常によかったと思えました。札幌市は広いですが、大体どのぐらいの地域から、満遍なく10区から来ているとか、業種というか非営利もかなりの分野があるので、どこら辺が多かったのか気になりました。

○事務局（下谷内職員）

大変申しわけありませんが、区別のデータは現状持ち合わせておりません。業種については、参加団体で述べますと、NPO団体が約12団体程度で、残りは、任意団体が参加していただきました。

○小内部会長

団体から意見を聞くような取り組みは今までもやられていたのでしょうか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

計画を見直しする際にはこういったことをやっています、前はワークショップ形式ではなく、団体にテーブルを囲んでいただいて1団体ずつご意見をいただくような形で意見交換会を開催しました。計画の見直しの際にはご意見を聞く場を設けております。

○小内部会長

応募が多かったというのは、前回に比べても非常に多かったということですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

前回よりも多かったと思います。やはり、いろいろなご意見を持っている団体が多いのかなと感じました。

○小内部会長

意見を言いたいという人が多かったということですね。

○相馬委員

人材のところ、団体ができてどれぐらいの年数がたっているのか。というのは、世代交代とか担い手と書いてあるのは、ある役割が終わったというと語弊があるかもしれませんが、それにかわる新しい団体が出たらそれはそれでいいと個人的には思うのです。それがずっと続くのが最優先のことではなく、ある程度必要な課題があるときに団体ができました。その活動がある程度終息してまた新たな課題の団体ができていくということもあると思っています、団体の継続性はすごい大事かもしれないですが、新たな団体、それも、結構活動的な団体が幾つできていくのかという視点もある程度置いておいたほうが団体をつくりやすいとか活動しやすいとか、そういった視点もひょっとしたら必要になるというふうに個人的には思います。年月は長いのですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

調べればわかるのかもしれませんが、今回の参加者リストをつくったときには設立年数までは整理をしなかったので把握できておりません。

○小内部会長

ほかの方はどうでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○小内部会長

それでは、これから計画を立てる中で参考にしていければと思います。

続きまして、アンケートです。前回も速報がありましたけれども、今回はちゃんとした調査結果ということでお願いいたします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

資料3-1をごらんください。

市民まちづくり活動団体を対象にしたアンケートということで、前回ご説明させていただきましたが、実は、前回ご報告した後に何団体か回答が遅れて届いたので、その

結果を加えて集計したものになっております。

変更した点としては、1 ページ目の④の回収結果です。5 2 3 となっていますけれども、前回は 5 1 4 となっております、おくれて回答が来た 9 件を足した形になっております。ただ、全体の結果についてはさほど大きな影響はありませんでしたので、中身のご説明は割愛させていただきます。

あわせて資料 3-2 をごらんください。

今回のアンケートを属性別に集計したものになります。今回追加で作成しましたので、この資料についてご説明させていただきたいと思います。

まず一つ目は、団体の主な活動拠点はどこですかという質問です。区分のところに属性を書いてありまして、NPO なのか、それ以外のボランティア団体、任意団体なのか、それから、町内会等、属性が無回答だったものと分けて集計しています。この質問については、全体の回答で一番多かったのが法人、団体等の事務所、公共施設の貸しスペースの二つなのですが、属性で見えていきますと法人、団体等の事務所については NPO が 69.7% で圧倒的多数を占めていまして、一方で、公共施設の貸しスペースについては町内会等が 77.3% ということで差が見られるということが属性別ではわかりました。

2 ページ目に進んでいただきまして、活動拠点に関する情報を主にどのような形で入手していますかという質問です。全体の回答としては、市民活動サポートセンターのホームページ、その他ホームページが多かったのですが、属性で見えていきますとホームページをご覧いただいている団体は NPO と任意団体等が非常に多く、町内会等は少なく、逆に町内会等は何をごらんになっているかというところと 8 番の会報、広報誌、11 番のほかの活動団体からの情報提供といったところを情報源にしているということで、これも属性によって傾向が違うことがわかってきました。

続いて、3 ページ目です。

どのような情報を必要としますか、上位三つを選んでくださいという質問で、全体の回答で一番多かったのが 7 番目の行政、民間の助成金に関する情報でした。属性で見ると NPO、任意団体等、町内会等のそれぞれが高い数字になっております。2 番目に多かったのが 1 番の活動に参加してくれる市民に関する情報、これについてもそれぞれの属性で高い数字になっているということで、3 番目に多い回答が 5 番目の活動場所に関する情報です。こちらは NPO と任意団体等は数字が大きいのですが、町内会等については 4.5% で数字が小さくなっていることがわかりました。

続いて、4 ページに移ります。

どのような情報を必要としていますかという質問で上位三つを選んでいただいたのですが、そのうち 1 番目に選んでいただいたところだけを集計したのがこちらの表です。全体の数で一番多いのが 1 番の活動に参加してくれる市民に関する情報で、2 番目が専門的な知識を有する人材に関する情報、3 番目が 5 番の活動場所に関する情報ということで、1 位のものだけを集計していくと若干順位が並び変わることがわかりました。

続いて、5 ページ目です。

貴団体では、問3のような情報を主にどのように入手していますかという質問です。全体の回答で多かったのは、サポートセンターのホームページやその他ホームページですが、属性で見るとNPOや任意団体等が多くなっています。町内会等については、会報、広報誌、11番のほかの活動団体からの情報提供が多くなっています。

続いて、6 ページ目です。

こちらは、連携についての質問です。貴団体は他の団体等と連携していますか、または、連携したいと思いませんかという質問です。現在、連携していると答えた団体の属性を見ていきますと、NPOと任意団体等、町内会等どの属性も高い数字になっています。今後、連携したいが行っていないというところも属性別に見るとおおむね同じくらいの比率になっています。現状では連携したいと思わないと答えたところはNPOと任意団体等は20数%ですが、町内会等は4.5%と少なくなっています。ですから、連携している、今後連携したいと回答した団体の属性を見ますと、7割から8割程度はそのように考えていることがわかりました。

続いて、7 ページ目をごらんください。

連携について、どのような理由から連携しているか、もしくは、連携したいと考えていますかということです。全体の回答で一番多かったのは7番目のさまざまなネットワークを持つためというものでした。属性を見てみますと、町内会等は少な目でNPOと任意団体等が高めの数字になっています。全体の回答で2番目に多かったものは1番の効果的な地域の課題解決のためというものですが、こちらは町内会等が73.7%で高い数字になっていて、NPOと任意団体等は相対的に見ると少な目の数字になっていることがわかりました。その他、ここに書かれている結果になっております。

続いて、8 ページ目に進んでいただきたいと思えます。

貴団体が主に連携しているのはどのような団体ですかということで、クロス集計したものになります。NPOと任意団体等が今連携している、もしくは、連携したいと考えている団体を見ますと1番の他の市民活動団体（NPOボランティア団体等）が一番多く、2番目が行政、3番目が企業、それから、学校の順に続いていまして、任意団体等では行政の次に学校という順番になっています。一方、町内会等は順番が異なっていて、他の市民活動団体と連携したいと考えている町内会等は15.8%にとどまっております、逆に同じ町内会、自治体、消防団との地縁団体同士が68.4%、同じく、社協や福まちも68.4%で、こういったところと連携したいと考えているところが多いことがわかりました。

最後に、9 ページ目です。

現状では連携したいと思わない理由についてです。全体で一番多い回答は6番目の連携の必要性を感じないためだったのですが、属性で見ますと、町内会等でここに回答したところは1団体もなく、NPOと任意団体等が多かったことがわかります。町内会等につい

ては回答がばらけている状況になっています。

以上、今回は属性別に分析したものをつくりましたので、追加でご説明させていただきました。

○小内部会長

今回、追加していただいた団体ごとのアンケート調査結果なども含めて何かご質問などがありましたら、お願いいたします。

比較すると、町内会がもっとあって、同じ調査をして比べられたらより正確だと思います。傾向はすごく出ていると思います。

ありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○小内部会長

では、議題(4)の第3期市民まちづくり活動基本計画の基本目標及び基本施策(案)修正ポイントについて事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(竹越市民活動促進担当係長)

資料4をごらんください。

第3期市民まちづくり活動基本計画の基本目標及び基本施策(案)修正ポイントについてという資料になります。構成としましては、一番左側が前回の検討部会の際にお示ししました次期基本目標と基本施策の案になっています。その横が前回の事業検討部会で出されたご意見や提言をまとめたものになっています。その右側の基本目標・基本施策の修正ポイントというところがご意見やご提言を踏まえた修正のポイントをまとめたものになっていて、一番右側が修正後の次期基本計画の目標・基本施策案となっております。

では、前回の事業検討部会で出された意見、提言のところからご説明させていただきます。

基本目標1の参加の部分は、基本目標1の参加が最も大事である、それから、基本施策1と2は、1が幅広い分野のまちづくり活動への理解と参加促進、2が地域コミュニティ活動への参加、協力の促進ですが、その違いがわかりづらいのではないかというご意見もありました。それから、基本施策1については、幅広い分野の市民活動でまずは参加の一步を踏み出すことが大事である、これを踏まえて、基本施策2で地域に関わってくればさらにいいのではないかというご意見もございました。それから、参加する人が少ないのが大きな問題であり、市民まちづくり活動への参加がなぜ必要なのかという理解の促進が進んでいないことが一因になっているのではないか、根本的なまちづくりの意義の理解の促進というものを基本施策に追加してもいいのではないか、参加できるような仕組みづくりを行うことが目標の達成には最も効果的であるといったご意見が出されました。

基本目標2と3につきましては、たくさんの意見は出なかったのですが、活動に参加してくれる人がいないという点について、人材育成という講座を開くということになりますが、人と人をつなぐ機会をつくるとそこから自然に育っていくということもあるかも

しれない、それから、基本目標 2 と 3 は現行のままでいいのではないかといったご意見もございました。

全体を通したご意見としては、基本目標が四つから三つになって、個人・団体・連携という整理はわかりやすいというご意見や、もう少しわかりやすい形で市民まちづくり活動がイメージできれば、それぞれの目標が生きてくるのではないかといったご意見がございました。

こういったご意見やご提言を踏まえた修正ポイントですが、まず、基本目標 1 につきましては、基本目標と基本施策をわかりやすい表現に文言の修正を行いました。基本目標 1 のうち、市民まちづくり活動の理解と参加はそれぞれ重要な項目なので、ここは一つの基本施策を二つに分けておのおの基本施策として整理しました。それから、ごみの分別などの特定の分野の参加率は高いのですけれども、より自主的に市民まちづくり活動に参加していただくことを目的に、前回、既にお示しした修正点でございますが、基本施策に「幅広い」という文言を追加しました。こちらにも既にご説明しておりますが、大規模な自然災害などの影響から、地域コミュニティの重要性が再認識されていて、札幌市でも地域コミュニティ検討委員会から地域コミュニティの活性化に向けた提言がなされていることから、地域コミュニティ活動の活性化に向けた支援を基本施策として位置づけました。

この修正ポイントを踏まえて、右側の基本目標 1 ですが、市民まちづくり活動に対する理解と幅広い分野への参加の促進と文言を修正させていただきました。基本施策が三つありまして、前回の基本施策 1 を二つに分けて、基本施策 1 が市民まちづくり活動の必要性や具体的内容の普及啓発、二つ目が幅広い分野の市民まちづくり活動への参加の促進としました。基本施策 3 の文言も修正しまして、地域コミュニティ活動の前は参加、協力の促進となっていましたけれども、活性化に向けた支援と変更させていただきました。

続いて、修正ポイントの基本目標 2 です。

こちらにもわかりやすい表現に修正したということと全般的に課題の内容に大きな変化がないため、これまでの方向性を継続したいと考えまして、市民まちづくり活動団体の運営体制の強化や活動に対する支援として、「団体」という言葉を「市民まちづくり活動団体」に変更したことと、そのほかの文言についてもわかりやすい形に修正しました。

四つの基本施策についてもわかりやすい表現に修正しまして、1 番目が市民まちづくり活動団体に対する拠点施設での支援、2 番目が市民まちづくり活動団体の活動資金の調達のための支援、3 番目が市民まちづくり活動団体の組織力強化に資する人材の育成、4 番目が市民まちづくり活動団体の活動の場の確保に向けた支援と修正させていただきました。

最後に、基本目標 3 の修正ポイントです。

こちらにもわかりやすい表現に文言を修正したこと、それから、基本施策 1 と 3 は、どちらも団体間の連携を促進するということで目的が一致しているので、これは統合させていただきたいと考えております。基本施策 2 は継続して企業の社会貢献活動を支援していきたいということで、基本目標 3 の修正後のものは、市民まちづくり活動団体間の連携の促

進とさせていただきまして、基本施策1が多様な市民まちづくり活動団体の連携に向けた支援、基本施策2が企業の社会貢献活動の促進とさせていただきました。

資料5につきましては、次の議題になっているのですが、ここもあわせてご説明させていただいたほうがより基本施策のイメージが付きやすいと思いますので、続けてご説明させていただきます。

この資料は、基本施策ごとにそれぞれ想定される事業の例なので、あくまでも例示にはなりませんけれども、記載しております。基本施策のところに二重丸がついているものが重点施策として位置づけたいと考えているものになります。

では、基本目標1の基本施策1から事業例を見ていきたい思います。

まず、基本施策1の市民まちづくり活動の必要性や具体的内容の普及啓発について想定される事業としましては、市民まちづくり活動全般のホームページや市の広報誌などによる情報発信、それから、町内会の活動内容や意義を知らせる啓発活動を想定しています。

基本施策2の幅広い市民まちづくり活動への参加の促進については、参加機会を情報発信するメルマガの発行、「まちさぼ」と呼んでいるまちづくり活動情報サポートサイトや市民活動サポートセンターを通じた情報発信、それから、さぼーとほっと基金を通じた寄附の呼びかけです。

基本施策3の地域コミュニティ活動の活性化に向けた支援については、町内会の活性化に向けた取り組みや地域交流の場の整備、支援を想定しています。

続いて、基本目標2です。

基本施策1の市民まちづくり活動団体に対する拠点施設での支援については、市民活動サポートセンターにおける相談対応や情報提供、また、まちづくりセンターにおける地域事業の実施支援を想定しています。

基本施策2の市民まちづくり活動団体の活動資金の調達のための支援については、さぼーとほっと基金の活用の促進や市民活動サポートセンターにおける補助金等の情報提供ということを想定しています。

基本施策3の団体の組織力強化に資する人材の育成は、市民活動サポートセンター、生涯学習センター、ボランティア活動センターといった施設における各種講座や団体の人材育成を支援する講座、セミナーなどの取り組みを想定しています。

基本施策4の市民まちづくり活動団体の活動の場の確保に向けた支援については、活動の場の整備を支援する取り組みや市民活動サポートセンターにおける場に関する情報提供を想定しています。

最後に、基本目標3の連携です。

基本施策1、多様な市民まちづくり活動団体間の連携に向けた支援についての事業例としては、団体間の交流イベントを開催する、NPOと地域のマッチングを挙げています。

基本施策2の企業の社会貢献活動の促進の事業例としては、企業の社会貢献活動を支援する取り組み、さっぽろまちづくりパートナー協定の締結を想定しております。

説明は以上になります。

○小内部会長

以上、資料4と5をまとめて説明していただきました。前回、いろいろ意見が出ていたと思いますけれども、それを踏まえて資料4でいえば一番右側の列のような形に三つの基本目標がまとめられています。何かご意見、質問があればお願いいたします。

○相馬委員

資料5に事業例が書いてありますけれども、この中で今まで取り組んでいなくて新たに取り組みましたというものを教えてください。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

現段階では新しい取り組みは入れておりませんで、現行の取り組みを整理して記載させていただいております。

○相馬委員

要するに、基本項目はこれでいきたいと思います、そして、決まった段階で事業としても新たなものをつけ加える形になるのですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

流れとしましては、この後、テーブルの答申案としてまとめていただきますけれども、その段階ではまだ具体の事業は入ってこなくて、それを受けての最終的な基本計画を策定するには具体の事業を書き込んでいく形になります。ただ、その中でどれだけ新しい事業を盛り込むことができるかというのは、まだ現段階では何とも言えない部分があります。

○小内部会長

事例に足したほうがいいものがあればわかりやすいと思います。今のことに関連して、二重丸の重点施策は必要なのですか。この中で、特にこれを重点にするというのは全部同じぐらいの比重でもいいような気がするのです。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

ここは考え方だと思いますが、これまでの第1期、第2期の基本計画の中では重点施策ということで、重点的に取り組むものを色分けして位置づけしていたので、それを踏襲する形で今回もそういう整理にしようと考えています。

○事務局（小島市民自治推進室長）

何か違いがあるのですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

必ず重点施策を基本計画に盛り込まなければいけないのかどうかという点ははっきりわからないので、市全体の中でどうなっているのかは確認しなければわからない部分です。

○小内部会長

まだ案ということですね。

○澤出副委員長

わかりやすくまとめられていると思いました。先ほど相馬委員から質問があったように、

新しいのはまだ入っていないというお答えがあったのですが、今聞いていてアンケートやグループワークなどの結果が出ていて、私自身が18年ぐらい市民活動をしてきた中で、どんどん変化しながら札幌市のまちづくりの提案や地域住民の人たちといろいろやりながら方向性が少しずつ進んできたとても感じられて、ここまで来たのだなというのが感想です。

ネットワークの子ども会、町内会や任意団体、NPOという部分は明快な形で連携が必要で、どれぐらいのというパーセントも出ています。柱が立っているので、今度は肉づけをされていくと思います。今後、データを確認しながら肉づけをして、少しずつ変化させていくと思うのですが、たたき台をつくったときにもう一回確認を市民と一緒にしていく、選ばれた方たちと一緒にしていく形になるのでしょうか。文言が整理されて肉づけされた形になったとき。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

具体的な事業も盛り込んだものをテーブルの中で確認するタイミングがあるかどうかということですか。

○澤出副委員長

このテーブルは、割と大ざっぱな形になっているので、本当に大事なのは地域住民の方たちがまちづくりのためにやってきたことが、今後、こういう柱でやっていく方向性の3期目が出るわけですから、アンケートを出してたたき台をつくったときに、もう一回集まってもらって確認するとか、そこからテーブルに出てくると思ったのです。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

今後のスケジュールの流れとして、テーブルの中では答申という形でまとめていただきますので、それを受けて我々のほうで基本計画の素案を策定します。その中に具体的な事業を盛り込んで策定する形になりまして、それを今度は市民にパブリックコメントとして公開しますので、そこで広く市民の方から具体的な事業を盛り込んだものを見てもらった上で広くご意見を頂戴する機会を設ける予定になっています。

○相馬委員

私は、わかりやすいと思います。

今後は事業例がすごく大事になってくると思います。そのところをどれだけ実際に現場でやっている方たち、ものを事業としていかに盛り込んでいってそれをうまく回していくかというのが今後の活動の中心になってくると思います。やはり、もう少し意見を集めるような機会を設けたほうが、事業として、基本目標があつてのそれに対しての事業をもう少し、こういうことが必要だねということのヒントになるような意見をもらえる場があればもっといいという感じがします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

先ほど申し上げたことですが、パブリックコメントのときに具体の事業を盛り込んだ形でお示しすると申し上げましたが、確認中です。もしかしたらパブリックコメントの段階

ではまだ具体の事業が入ってこない可能性もあります。具体の事業を書き込むのがなかなか難しいのはなぜかという、どうしても事業を実施するには予算が必要になってくるといことで、その予算の裏づけがなければやりますと一方的に我々のほうで言えないというがあるので、内部でいろいろなやりとりをして予算の裏づけがついて初めて事業として書き込める形になるので、ですから、継続事業についてはある程度書けるかもしれませんが、新しいものとなるとなかなかハードルが高いので、どの段階でどこまでそれをお出しできるかというのはなかなか難しい部分があるかと考えています。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

補足させていただきます。

確かに、おっしゃるように、市民の皆さん、活動団体の皆さんに具体的に事業を伺えばいいのかもしれませんが、できれば私たちとしては、団体からいろいろなアンケートをいただきましたので、その中身を精査した上でなるべく予算を効率的に使いながら、例えば、アンケートの上位にありました助成金や補助金の情報は市民活動サポートセンターのホームページやメールマガジンには助成金情報として発信しているのです。ただし、事業の実施や情報が知られていないということも多々ありましたので、事業を組むというよりは今やっていることの発信も含めて効果的なものになるようにして、事業化していきたいと思っています。

○小内部会長

アンケートなどを参考にして、より具体的にお金の使い方も幅広く可能性がある事業例があるといいのかなと思います。

ほかの方はいかがでしょうか。

三つにまとめられたのはいいと思いますが、前は2文字であったので、例えば2と3は、団体の支援とか連携の促進という2文字ではなく5文字ぐらいで、みんな基本目標1が重要だと言ったときに、ここが少し難しいのですけれども、例えば、ちょっとおこがましいかもしれませんが、個人の成長、市民の成長というふうにすると、ぱっと目にとまるフレーズがあるとインパクトがあるという気がします。わかりやすさという点ではですが。という意見ですが、皆さんはどうでしょうか。

○相馬委員

そのほうがわかりやすいと思います。

やっぱりキーとなる言葉を、もっと短くぼんと出ていたらよいと思います。

○澤出副委員長

前回の会議では、みんながわかるようにということでこの言葉を選んだのですよね。

○小内部会長

これはあってもいいと思うのです。ぱっとした標語とその説明として下に何行があるような感じで、これはあったほうがいいと思います。

○相馬委員

企業のほうからいろいろな資金をもっと集めるような事業を一生懸命考えたほうがいいかもしれません。何にしても予算、資金の部分というのは各団体が非常に苦労されているのかな、団体のほうが自分たちのほうで調達するというのもいいかもしれないのですけれども、市全体としても、市の予算ということではなくて、企業のほうでどういうふうにしたら多く寄附なりしてもらえるかというのをすごい集中的に考えるのもいいのかなというふうには個人的には思っています。今後はお金を集めるという形に集中してもいいと思います。

○小内部会長

ほかにご意見はありますか。

○金山委員

まとまったのではないかと思います。

基本目標2に関しての重点目標がお金と人材になっていまして、これは人・物・金の支援ということなのでしょうけれども、優先順位といいますか特にこの部分は、人の部分なのかお金の問題なのかニーズはどちらが高いのかというところがあって、両方とも重点目標になっているのですが、優先順位があったほうが良いような気はします。

それから、基本目標1の基本施策1と2は、市民まちづくり活動の普及啓発は参加の促進の二つに分けたのですけれども、基本的にはこの二つは一体のものという気がしてまして、要は、促進するために普及啓発をするという考え方でいくと一緒なのかという気がしているのです。ですから、重要なのは、普及啓発をいろいろやられていると思うのですけれども、その目的が何なのかというところをはっきりさせて、それはやっぱり参加の促進であるというところ、では、参加しやすくするためにはどういうことを知らせればいいのかというような考え方だと思いますので、これは一体というか、参加を促進するために普及啓発するのだということで施策としては一つなのかなという気はしました。

○小内部会長

今のご意見についてはどうでしょうか。

普及啓発は本当に初発の段階というか、意義を知ってもらって、さらに一歩進んだのが参加の促進なのかなと、段階があるのかなというイメージを持っていました。まず知って、そして第2で一歩踏み出して、第3で地域づくりにかかわってみようみたいな。

1、2、3というのは、段階もあれば、基本目標2なんかは並列だから最初に出てきたほうが重要なのかと思うところもあるし、並べ方は難しいですね。私も一瞬、お金よりも人材育成が前のほうがいいのではないかと思ったのですがね。

基本施策1の拠点というのは、まちづくりセンターなどでの支援ということですよ。

○事務局（小島市民自治推進室長）

部会長からご指摘がありました。順番はあるのですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

特段順番はないと思っています。ですから、基本施策1、2、3、4となっていますが、

その中で差があるのは重点施策かどうかという部分だけなので、2と3を特に力を入れてやっていくということなので、そのどちらかに重みがあってという差を今はつけているつもりはありませんでした。

○金山委員

基本目標2の基本施策1は拠点施設での支援となっていますが、拠点施設での支援というのをわざわざ取り上げるには何か理由があるのですか。

2番や3番はどこで支援するというのは余り関係ないと思ったのですが、わざわざ施策1において拠点施設で支援すると別立てにしているのは何か意味があるのですか。

例えば、4番の活動の場の確保に向けた支援で拠点施設を使ってもらおうというのなら話はわかるのですが、相談対応や情報提供が拠点施設で支援しなければいけないものなのかどうか、ここの基本施策1が独立して立っている理由は何かあるのですか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

おっしゃるとおり、あえてこうせずに、例えば、2、3、4にも共通のものになっていますので、そこに全部溶け込ませるという考え方ももちろんあると思いますが、今あえて分けているのは、サポートセンターやまちづくりセンターという特徴的な施設を札幌市は持っていますので、かつ、いろいろな取り組みをやっていますので、そこをもっともっとPRしたいと考えていまして、こんなにたくさんいろいろなことをやっているというのを強調したいという思いがあって、あえて施策の一つとして分けて持ってきたのが理由です。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

もう一つ、市民活動サポートセンターにつきましては、市民活動促進条例をつくったときに、その条例の中での拠点施設という位置づけがあるのです。その拠点施設をもって札幌市は支援に努めなさいという項目があるものですから、どうしても拠点施設という言葉を使ってしまっています。ですから、こういう位置づけになっております。

○小内部会長

拠点施設での支援というイメージがうまく伝わる言い方はないでしょうか。前回も拠点施設と活動の場は何が違うのかという質問をしたような気がします。

○相馬委員

私は、拠点施設とはエルプラザのことだと思いました。

○小内部会長

確かに、まちセンというのは札幌市の特徴的施設ですし、あそこに職員を1名配置されていますね、そういうのは強みではあると思うので、うまくそういうものを活用したものを支援したいというのがストレートに伝わるような表現はないのですかね。

○澤出副委員長

私はいつもまちづくりセンターに行っています。地域に密着して活動、多分、テーブルでは皆さんいろいろな形で活動されていると思いますが、私の場合は多いときは1日1回とか、まちづくりセンターのある位置づけというのをよくわかっていて、本当に皆さんが

福まちとか既存の町内会の団体とか、また、いろんな形で地域を構成している人たちがそこに入りながら会場を使ったり、これが不足だからどこかをつないでほしいというような形で具体的に今はなっているので、先ほど言った評価という形で3期だから1期5年ごと、結構きているプロセスの中の表現なのだろうと思っています。3期だから10年プラス1年に入っているから、その10年間のプロセスがここに出ているのかなと自分で勝手に考えていました。そこから今度、もっと応援していく何かが少しずつ地域が変動しているのについてくるのかな、アンケートから、とは思っていたのです、表現方法として、違ったらごめんなさいね。現場がわかるので。

○相馬委員

市民の皆さんのほうが、単純に拠点施設という言葉だけで理解できるかというところだと思います。それが部会長がおっしゃったことでもあると思います。もっとすぐに理解できるようなストレートな言葉のほうがいいかというのは、そういうことだと思います。

○澤出副委員長

説明してもらって初めてわかった。

○相馬委員

説明文章が中に入っているのはどうかというところだと思います。

○小内部会長

札幌市の計画なので具体的な名称、拠点施設（サポセンやまちセン）を通じた市民まちづくり活動団体に対する支援というほうがわかりやすいと思います。札幌市なので、名前を出してもいいと思うのです。

○澤出副委員長

人によってイメージが違うかもしれないですね。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

サポセン、まちセンだけかというのと、実は、市民活動プラザ星園などほかにもありますので、「など」をつけるのがいいと思います。確かに、この拠点施設だとわかりづらいと思うので、今おっしゃったような形でわかりやすくなるように検討したいと思います。

○金山委員

逆に、それだけたくさんあるのであれば、基本施策4の活動の場の確保に向けた支援という部分は、もっと活動の場として使われてもいいのではないかという気がします。それぞれの団体で事情があるのでしょうけれども、その mismatch というか、サポセンなりまちセンなりいっぱい場所があるのに活動の場として使われていないというのは何かあるのですか。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

それぞれの団体で違ってくると思うのですが、サポートセンターに無料の会議コーナーなど打ち合わせできるスペースはあるのですが、そこは非常に混み合っています。ですから、全ての団体が貸館の部分だとお金がかかってしまって、皆さんはなるべ

く安いところに行こうとする、すると抽選のときにはかなり早い時期から申し込みをしなければいけない、でも、団体の方たちは、ちょっと話し合いがしたいねといったときにすぐできる場がないということなのだと思います。

先ほどのアンケートにもありましたが、町内会や地域の近くに会館を持っていらっしゃる人たちはそんなに場所の苦労はないと思います。逆にNPOや任意団体の方たちがちょっと集まって話をしたいというときに施設や場所、情報がないと困っているのだと思います。具体的に借りられていないというわけではないです。

○小内部会長

今の件はよろしいでしょうか。

ほかに何かございますか。

先ほどの話ですが、今の意見を踏まえて、もう一回たたき台をつくってどうなるのでしたか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

今日のご意見を踏まえまして、9月中旬ぐらいに事業検討部会でまたお集まりいただくことになっているのですが、そのときに答申書の案という形でお示ししてご確認いただきたいと思っております。

○小内部会長

次には答申案が出てくるので、気がつくことがあれば今回言うておく必要があると思います。もしまだありましたらお願いいたします。

○事務局（小島市民自治推進室長）

パブリックコメントに事業が盛り込まれるかというのはわかりますか。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

先ほど申し上げた具体的な事業がどの段階で盛り込まれるのかというお話について、市民の方にご意見をいただくパブリックコメントの段階でお示しするものの素案の中に、具体的な事業も書き込んだ形で市民の方からご意見をいただくこととなります。

今お話しするのが前回の第2期計画のときのパブリックコメントで市民の皆さんに公開した素案になります。

○事務局（小島市民自治推進室長）

そのときに既にやっている事業を整理して載せたのですね。

○澤出副委員長

ベースになるということですね。そこからアンケートを加味することになるのですね。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

事業自体は変わりません。パブリックコメントのときは計画でのパブリックコメントなので、この事業を変えてくれとか、これをこうしてくれというものではないのです。こういうものを踏まえてこういう計画という考え方なので、こちらのように事業例のようなイメージでごらんいただく形です。

○事務局（小島市民自治推進室長）

答申をいただいて、それをもとに策定する計画そのものには事業は載ってこないのですね。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

補足資料という形で事業がついてきます。

○事務局（小島市民自治推進室長）

計画の中身ではなくて、要は、こんな事業をやってほしいというご意見をパブリックコメントで伺うことはできますので、計画をつくった時点は盛り込めなくても、いただいたご意見をもとに翌年に向けて私たちとしては具体的な取り組みとして考えさせていただく材料に十分なると思います。

○小内部会長

資料4と5に対するご意見はこれでよろしいでしょうか。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

最初に言葉があったほうがいいとおっしゃっていたところをどんなふうにするか、皆さんでお話しいただきたいと思います。

○小内部会長

インパクトという点では、金山委員が前回インパクトということを言われていたと思います。私は、この文章はいいけれども、基本目標1何とかとあって、その説明がコロナの後にあってもいいと思いました。

特に賛同がないようなので、判断はお任せします。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

基本施策1と2を分けたことに対して、部会の委員としての意見はどうですか。

○小内部会長

私は、とっかかりとさらに次の段階という意味でいいのではないかと思います。基本施策が目標にだけ四つなるよりはバランス的にもいいかなという気がします。

○相馬委員

私もそう思います。

○小内部会長

順番は関係ないといっても、やはり1番目にくるのが最重要と普通の認識では思いますが、ですから、一番重要だと思うところから1、2、3といったほうが自然かなという感じがします。

○相馬委員

全部が重要という気がしてしょうがないのです。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

もし、札幌市の中の決まりごととして重点施策を必ず設けなければいけないというのがあるかどうかは調べなければわかりませんが、もしそういうものがなければ、重点施策を

あえて定めないほうがいいのかという皆さんのご意見でよろしいですか。

○相馬委員

これだけシンプルにしてもらったのなら、これにエッセンスが全部入って全て重要という捉え方のほうがいいという感じはします。

○小内部会長

何となく市民団体の方も町内会の方も人材ということを言われていたので、2と3が逆でもいいかなというイメージがあります。

○澤出副委員長

基本的には最初のもので理念でも何でもそうですが、最初にくるのが一番大事なので、その順番を決めて2と3はどちらが先かのほうがわかりやすいのではないですか。

○相馬委員

3、2、1、4みたいなイメージです。

○澤出副委員長

先ほど金山委員がおっしゃっていましたね。そのほうが格好いいですよ。

○金山委員

それは部会長です。

○小内部会長

私は、1はこれでもいい気がします。

○澤出副委員長

これが札幌市の特徴ではあると思います。けど、これがメインではなくて市民がメインですから、今まで参加をしていなかった人たちに幅広く参加してもらおうというのが大切な目標なので、サポセンとかは後ろにくるということで、やはり人材育成の3、2、4、1でいいのではないですか。何で一番後ろへ行ったかということ、いわゆるみんなが知っているエルプラザなどの施設が一番後ろへ行くということで、もうプロセスとしてはでき上がっているのを時代とともに変化するのをつけ足しながら変えているということなので、私は最後でいい気がします。差別化をする。

○小内部会長

順番という点について、ほかの方はどうでしょうか。

1はトータルイメージがあるのです。そして、個別なより具体的にというイメージでした。総合的な支援があって、後は人、金、場所みたいな。それぞれの感覚の問題ですね。

○金山委員

重要なものを先に持っていくという意味では、基本目標2は、3、2、4、1という順番でいいのではないかと思います。その流れでいうのであれば、基本目標1も基本施策2が一番重要だと思うので、2、1、3に順番を変えたらいいのではないかと思います。

○澤出副委員長

もう既にやっていて、それから幅広い支援ということですね。

○相馬委員

取っかかりと参加の流れの重要度は少し一致しないですね。

○金山委員

やはり目標施策、計画ということであれば重要度が、先ほども話したのですが優先順位というか何が重要なのかというのをはっきりさせたほうがいいということであれば、重点目標というふうに打つのか、あるいは、重要な順番に並べていくということであれば、やはり重要度を順番で見せるほうがいいのではないかと思います。

○相馬委員

金山委員がおっしゃっているのはよくわかりますが、1に関しては何か順番が違う気がするのです。

○小内部会長

裾野を広げるという意味では普及啓発も重要だと思います。

○澤出副委員長

自分のことを言って申しわけないのですが、私が50のときから始めたから今は70で20年なのです。どんどん変わっていて、一番今大重要なのは、それをやっていない人たち、数字のマジックでどんどん参加率が、初めは一掴みの人間だけで、数字の法則がありますよね、今がちょうどまちづくりの基本施策も10年たって、また新たに3期目に行くのに、重要なのは参加だと思うのです。参加している人たちのところに、もっとあっちを向いていた人たちが自分ごととして地域を見ていかなければいけないと私は、やってきていて、やっている人たちもくたびれてきていて、50でやった人は70になり、60でやった人は、若い人たちも金山委員のようにやっているけれども、やはり一掴みで全体の底上げが大事なのかなと思います。それが1番か2番かはその人の物差しによるでしょうけれども。

○小内部会長

1番も2番も大事ということですか。

○澤出副委員長

2番はもうやってきているから、今やっている人たちの底上げをするのだけれども、1番は要するにもっと啓発して参加を呼びかけてみんなが自分ごととしてやっていかなければ間に合わないのではないかと私は思っているのです。現場にいて。50%近いですから、高齢化率はうち。だから地域のみんなでやらないと間に合わないのです。本当に、企業もみんな。それをやっているものですから、まだ札幌市全体の高齢化率は二十何%ですから、まちづくりは、やはり生活圏をどうみんな支えて自分たちの生活が安心して札幌市にずっと住み続けられるかということを実現するためにするのだと思うのです。ですから、一番の課題はどんどん高齢化率というのは進んでいて、そこら辺を無視できないのになって、みんな地域で参加しながら地域づくりをしていくのが大事かなって私の視点では思うわけです。

○小内部会長

順番はこのとおりでいいということですね。

あとは事務局にお任せする感じでよろしいですか。ここで多数決をとって決めるほどではないのですね。

○澤出副委員長

ただ、基本施策の順番はわかりませんよ。一番の旗印はみんなが参加してつくっていきうよという、まちづくり局という行政ということは私たちの税金で成り立っているから一番大事なのはみんなの生活、みんなでやろうというのを第一に持ってきていると行政の旗が私たちと同じだという、参加かな。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

前回のお話し合いの中で、皆さんから、やはり参加がすごく重要で、参加してもらうためにはそもそもまちづくり活動がわからない人たちがたくさんいるので普及啓発も大事だねということで、事務局としては1と2を二つにばらしたのですけれども、事務局としてのイメージは先ほど小内部会長がおっしゃったように、順番では、まず、市民まちづくりは何ぞやというのを皆さんにわかっていただいて、そして参加、そして地域活動へのというイメージ、どちらかという、市民まちづくり活動の参加というのが一つの大きな枠での参加というイメージだったのですが、そして、その中でも地域コミュニティーは大事ということで3番目に出したのですけれども、そもそも二つに事務局が勝手に分けたというところもあるので、それなら1個のほうが誰も悩まないというのであれば、これを戻すのもやぶさかではありません。

○小内部会長

私が最近調査しているところは、高齢者の支え合いをつくっているところなのですけれども、結局、参加をつくるというのは副産物でしかない、大事なのはみんなが高齢化社会というのはどういうものを理解すること、すごく一生懸命講習会などを行っているけれども、何人がサポーターになったとか数が重視されるのはよくなくて、やはりまずは学習会に出て高齢者自身が介護保険の仕組みを理解するとかこれから大変な社会になっていくなということを知ることがまず重要であって、サポーター養成講座だからといってサポーターが何人養成されましたということだけが重視されるとすごく窮屈になってしまうし本来の意味がなくなるというふうに捉えた場合に、私は普及啓発がみんなが高齢社会、大変になって介護の仕組みってどうなっているのかとか、お金をどうやってみんなが出し合っているのかとか、そういうことを理解することがまず大事だというふうに思っているので、この順番でいいと思います。

○金山委員

前回の議論も踏まえて考えるとすると、この1と2は目的と手段だと思うのです。前回の話で言うと、参加を促進というのがやはり重要という話の流れはあったと思いますが、そのために普及啓発があったり何があったりというような目的と手段だと思うのです。で

すから、ここに書き込むのであれば目的は何なのかというところをはっきりさせたほうが良いと思うので、それは参加を促進することなのだ。それとは別な意味での普及啓発というのが必要であればここにあっていいと思いますけれども、そのための手段として普及啓発を使っていくということであれば一つにしてもいいのではないかと思います。

○小内部会長

そんなに深くこだわっているわけではないのですが、どうでしょう。

○金山委員

普及啓発は重点施策として書くまでもなくやることではないかと思うので、重点と言わなくてもいいような気はします。それよりも参加の促進が重要という話になったと思うのでこちらではないか。その手段としていろいろあると思いますけれども、ということと考えるとそういうことなのではないかと思います。わざわざ基本、重要ということではなくて、本当にやらなければいけないことですし、実際にやられていると思いますので。

○事務局（佐藤市民活動促進担当課長）

それでは、1と2は前回のように戻す方向で、次回までに整理し直すということによろしいでしょうか。

○小内部会長

そのほかにご意見はありますか。

（「なし」と発言する者あり）

○小内部会長

ないようでしたら、議題（5）までを終わりたいと思います。

それでは、議題（6）の第3期市民まちづくり活動促進基本計画及び答申の項目案について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

それでは、資料6をごらんください。

基本計画及び答申の項目案です。1から5までの5項目については、最終的な第3期の基本計画全体の項目として考えています。その中で、黒丸のついている1と4と5は、今回のテーブルの答申に盛り込む項目ということで考えております。

順に説明していきます。

まず、1番のはじめには、前文のような形で一言あります。

2番目が基本計画の策定に当たって、市民まちづくり活動とはということ言葉の定義をここで説明しまして、次に、市民まちづくり活動における全国の動向、特に、東日本大震災以後の動向について記載したいと考えています。（3）札幌市の現状として、市民まちづくり活動団体の現状や地域コミュニティ検討委員会の報告などを記載したいと思っています。

3番目は、第3期基本計画の検討経過として、市民まちづくり活動促進テーブルにおける審議や各種調査の実施結果をまとめたいと思っています。

4番目は第2期基本計画の取り組み状況と課題ということで、評価や取り組み状況と課題を基本目標別に整理するというので、これまでのテーブルでご議論いただいた振り返りの部分をまとめたいと思っています。

5番目が第3期基本計画の方向性で、まず、計画の策定、実施に当たり留意すべき事項ということで、市民まちづくり活動の必要性を周知するための工夫など書いていますが、何かというと、わかりやすく市民の方に伝えるために言葉づかいをわかりやすい表現を使うとか注釈をつけますというような、理解されやすくするための工夫をしますということを書き込みたいと思っています。(2)が計画の目的、位置づけ、計画期間です。前回の事業検討部会でも、なぜまちづくり活動が必要なのか、目的を明確にしたほうがいいというご意見がありましたけれども、そのあたりを書きたいと思っています。

参考として書いたのが、市民まちづくり活動が必要な理由のところ、行政側で考える理由を書いてみたのですが、市民活動促進条例を策定する際に有識者による検討協議会がありまして、その提言書の中から持ってきた文言になります。暮らしの中の公共的な課題については、主に行政が担ってききましたが、多様化する市民の課題やニーズの中にあっては従来型の行政の機能だけではきめ細かく十分に対応することが難しくなっています。一方、何か社会の役に立ちたい、地域の活動にもっと積極的にかかわりたいという思いからNPO活動を初めとしてボランティア活動や町内会、自治会活動などを行っている方もおり、企業も地域社会への積極的な働きかけとして社会貢献活動や助成事業などに取り組む動きが見られています。このような多様な市民活動や企業の社会貢献活動の重要性が行政の限界を乗り越えるものとして認識されるようになってきているということが提言書に書かれている内容で、これを受けて公共的な役割を担う活動の支援を行うことを基本計画の目的として考えています。

やはり、市民の方にはわかりづらい文章で伝わらないところもあると思いますので、もう少しわかりやすい表現にするなど、どういう形で記載できるのかについて、今後、引き続き検討していきたいと思っています。

(3)は全体の構成です。3期計画の全体構成を図でわかりやすくまとめて、(4)は基本目標と基本施策、答申では方向性まで、(5)が重点施策、ここも答申では重点とすべき事柄までということで、先ほど申し上げたとおり、関連する具体の事業はここには盛り込まず、方向性までにとどめさせていただきます。また、成果指標についても、答申の段階ではまだ出てこなくて、最終的な計画の中で成果指標と具体の事業が出てくるという形を考えています。

以上でございます。

○小内部会長

今の項目案について、ご意見やご質問があればお願いいたします。

○澤出副委員長

とてもわかりやすくいいと思います。最後に参考ということで書いてあったところは、

もう少し従来型の行政の機能だけではきめ細かく十分に対応することが難しくなってきましたというスマートな言葉なのですが、もう少しストレートに、みんなにインパクトがあるような形で書かれたほうが自分ごとと感じると思います。

もともとそんなにきめ細かく個人対応をしてるのが行政ではないわけです。これでは何でもやっていたように見えるので、もっとストレートにわかりやすく表現されたほうがいいと思います。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

例えば、どんなイメージでしょうか。

○澤出副委員長

いろいろなところを回ってきて、こういうまちづくりではなくて、地域計画などは、村とかまちとか市を見てきたのですが、おもしろいのは、根本から変えていかなければいけないですね。行政ゾーンは、本当はそうではなくて、自分たちの地域は自分たちでやっていくという明快さに気づいてもらうような文言でしたね。市の役割、住民の役割という形で明快に、今までとは違って明快にしていかなければ財政がちゃんとならないみたいなところですよ。

赤平は割とよかったですね。やはり炭鉱で社会とか経済変動ですごいことになっていらして、十何万人のところが一万三、〇〇〇人に急激になったわけです。それに向かって行政、地域住民の役割ということを明快にしていたので、すごくわかりやすくてまだ全然札幌市とは違っていても中身は大体行く方向性は同じなので、そこら辺、小さいところも勉強になるというか表現の仕方。基本的にそれを見ながらお話をすることが多いのです。その人たちが考えた地域計画で話をすることが多いので、わかりやすいですね。方向性がすぐわかるように割とストレートです。行政はこれをやるからあなたたちはこれをやってくださいみたいな、具体的にね。

○小内部会長 修正をお願いします。

そのほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○小内部会長

1、4、5を答申に載せるということですね。

次回、先ほどのところを練り直した案が出てくるかもしれませんので、それについてお話をしたいと思います。もう少しストレートに、行政では担い切れなくなっているということを書いてはどうかということです。

それでは、議題については終わりましたので、事務局から何かございましたらお願いします。

○事務局（竹越市民活動促進担当係長）

今回の事業検討部会は、9月の月上旬から中旬ごろの開催を予定しておりますので、改めて日程調整をさせていただければと思います。

また、その後、10人全員で集まっていただく本部委員会を9月の中旬から下旬ごろに開催する予定をしています。会議が続いてご負担をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

次回の議事内容については、今日までのご意見を踏まえまして答申の案についてご意見をいただく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

○小内部会長

以上で、本日予定していた議題は全て終了しましたが、ほかにご意見はありますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

3. 閉 会

○小内部会長

ないようですので、本日の事業検討部会を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。

以 上